

ある山小屋の中。殺風景。中央奥に暖炉。側に薪と新聞紙が積まれている。中央手前に大きな机とイス4脚。下手側手前にイス2脚。電灯、ランプ等はなし。上手奥、玄関に通じる廊下へのドアあり。廊下とその奥にある玄関とドアは、観客からは見えず。暖炉の左上に窓板。玄関のドアの開く音。

男 2 声のみ）誰かいるかい？

間。

男たちのヒソヒソ声。

上手のドアがゆっくりと開き、坊主頭の男2が顔を出し、部屋全体を眺め、

男 2 誰かいるかい。

と、体全体入ってくる。囚人服姿。慎重に周りを見て、

男 2 廊下奥に向かって）おい誰もいねーぞ、入れよ。

男2と同じく、坊主頭に囚人服姿の男たち4人が、ドヤドヤと安堵のため息をつきつつ入ってくる。

男 2 いい暖炉があるぜ。薪もあるし、紙もあると。

男 3 本当ですね．．．

男 2 あとは．．．（周りを見る）。

男 4 あのぞ、ライターを出す）

男 2 ライター！（受け取り）あんた何でライターなんか持ってんだ。

男 4 あの．．．逃げる時に．．．

男 2 逃げ．．．ま、借りるぜ。

男 2、3、しばし暖炉の火起こしに熱中する。

男 3 点きますか？

男 2 しけてやがんなあ、この新聞．．．お、点いたかな。

男 5 イスに座り）どれくらい歩きましたか？

男 4 ほ、ほぼ夜通しですから．．．7時間か、8時間くらい．．．

男 1、窓板を横にずらす。外はまだ暗く、明かりはほとんどない。

男 5 どうやら今日の天気は悪そうですねえ。

男 4 で、ですか？

男 5 ええ。

男 1、4、窓から外を見たり。

男 5 イスを数えて）一つ足りませんか？

男 1、下手のイスに気づき、近くに持ってきて、座る。

男 4 じ、邪魔ですね、これは。

と、机を下手に運んで戻る。

皆、暖炉を中心に、半円形に座る。

男 2 よし、これで大丈夫だろ？ へっ手間取らせやがる。

男 3 いやー生き返りますですねこれは。あ、皆さんも。

皆、暖炉の前で手や顔をさすったりする。

男 5 はあまり寒そうではない。

男 2 窓を見て）おい、窓は半分閉めとけよ。部屋が暖まらねえぞ。

男 1、窓板を半分閉める。

男 2 さてと．．どれくらい離れたんだろうな、ここは。

男 3 まあ、なんせ山道を登ってきたわけでございませうから、思

ったよりはですね、距離的にはきていないのでは、と。

男 5 それでも十キロ以上は歩いたのではないですか。

男 2 もう誰もこねえか？

間。

男 4 お、追手が、ですか？

間。

男2 仲間だよ、仲間。
男3 . . . ちよっと様子を見てきます。

と立って、上手のドアから退場。
廊下を歩く音。玄関のドアの音。

男5 他の方たちは捕まったでしょうかね？
男2 さてどうだかな。あれだけ四方八方に散らばったんだ。

玄関のドアの音。上手のドアから男3が入ってくる。

男3 人影は見えませんが、雪が降ってきましたですね。

皆、「えー」とか「雪が」とか言う。

皆、窓から外を見る。

「ああ」とか「おお」とか。

男4 ふ、降る前にここに着けてよ、よかったすね。

男5 まったくです。

男2 足跡が消えて丁度いいな。俺たちやついてるぞ。

男2、イスに座る。皆も続く。

男3 しばらくここで足止めになりそうでございますね
男2 ああ。

間。

男3 収まりましたですかね、あの騒動は？

男2 さ、どうだろうな。

男3 これから. . . どうされます？

間。

男2 ま、どうするかは、

飛行機の轟音。皆、窓から外を見るが、見えづらいので、
男5 以外は外に出る。
一人佇む男5。

やがて皆、戻ってくる。

男5 どうですか？

男3 まだ暗い上に雪でございますから．．。

男5 見えませんか？

男2 見えねえなあ。

皆、座る。

男3 あの、先ほどの話ですが．．。

男2 ああ．．まあどこに行くかってのは、少しゆっくり考えよう

じゃねえか。みんなへトへトだろ？

男3 ．．このまま逃げるのか、または戻るのかということをする

ね、お聞きしたかったのですけれど。

男2 戻る？ 何だ、あんたこのまま行かねーのかい？

男3 ええ、まあ、そうでございますね。正直に申し上げますとで

すね、あのドサクサでつい、衝動的にと申しましたよ、勢

いと言いましようか、ま、流れでございませぬ、流れで皆さ

んと行動をとるに致しましたが、ここにこうして落ち着いて

冷静に考えますとですね．．どうでしょうか、皆さんは。

間。

男2

けっ、勝手にしな。おりやあ行くぜ。こんな絶好の機会、逃

しちやばちが当たるってもんよ．．据え膳食わぬは男の恥。

そー思わねえか。

間。

男3 戦争が起きてなくともでしょうか？

男2 もちろんだ。

男3 国中がパニックになっていなくとも？

男2 あたりめーだ。

男3 しかしですな．．

男2 くどい！．．あんた等のことはよくは知らんが、俺はあと十

年ほど刑期が残ってるんでな。それにだな、あの時の状況を

思い出してみるよ．．まー大混乱だ。そーだったな？

男5 大混乱でした。

男3 銃声と叫び声．．さながら地獄絵図でしたすねえ。

男2 俺たちは逃亡したんじゃないやねえ、避難したんだ。そうだろ？ あ

男 5 そこにいりやあ自分の命が危なかったんだからよ。何せ囚人の数は看守より圧倒的に多いからな。看守もパニくりや当然銃も撃つ。巻き添えは御免だ、狂った看守のいる刑務所には戻れませんでしたと、逃亡じゃねえ、避難したんだと、言い訳が立つ。もし捕まったらな。

男 3 ここまでできた言い訳には使えるでしょうね。

男 4 ですからですね、捕まる前に戻りましょうと。．．。

男 5 じ、自首ですね。

間。

男 2 そう焦って結論出すんじゃないやねえよ。いいか。このまま避難し続けたとする。戻らなかったとする。そのあいだに記憶喪失になることもあらあな。単純に頭がおかしくなったとかな。．．その辺をうまく仲間に話させるのよ。見つけた時はな。．．とにかくあのかくあのかく狂った状況を作ったのは奴らのほうなんだ。実際、あんたら本気で避難したろ？

皆、「まあ」とか、「ですね」とか。

男 3 避難はしましたです。ここまで。

男 2 こっから先も避難したいんだろ。え？

間。

男 2 ま、ゆっくり考えるこった。

間。

男 3 咳払いして）それにしても驚きましたですね。あ、いえ、囚人の数にです。あんなに沢山いるとはですね。．．。

男 5 刑務所はどこも過密状態らしいですからね。

男 2 ．．あの看守の言ったこと、ちよっと整理してみるか。

男 3 ．．『逃げる逃げる』と。．．『戦争だ、戦争が始まる』。

男 2 ふむ。

男 1 こ、『殺される前に』って。．．確か。．．。

男 2 言っただなそれも。．．殺される前ってのは、敵に殺されるってことか？ それとも看守にか？

男 4 ど、どど、どうして、看守にか？

男 3 ．．あの。．．ワタクシ新参者ですが、こちらの刑務所に来る

前に少しよからぬ噂を耳にしましてですね．．．その、どこもかしこも予算削減が叫ばれておりますご時勢、刑務所も例外ではなく．．．まず刑務官の数を減らす代わりに、銃器による武装が認められたと．．．
男 5 一人で多くの囚人を担当させるためにですか？
男 3 はい。
男 2 そりゃ、噂じゃなくて単なる事実じゃねえか。
男 3 はい．．．それでですね、刑務官の次は囚人の数を減らすべきだとして．．．間引いていると．．．

間。

男 2 そういやここ数年は脱走騒ぎが多いな．．．俺はてっきり看守の数が減ったんでやりやすくなったのかと思ったが。
男 5 その脱走は成功してるんですか？
男 2 いや。皆、失敗だ。皆、射殺されたって話だぜ。

間。

男 5 (③に)．．．つまりわざと脱走させて殺しているの？
男 3 あくまで噂でございます．．．囚人のなかにスパイ的な人を紛れ込ませてですね、脱走の手引きをしている者がいると。

皆、互いを見合う。

男 2 こういう場合、言いだしっぺが一番怪しいんだぜ。
男 3 そ、そんな。
男 1 ボクでは、ど首を横に振る)
男 3 じ、自分では、ど首を横に振る)

間。

男 5 しかしあの騒ぎはわざとではないでしょう。看守たちも襲われていたのですから。
男 2 そうだな。もしやるなら少しずつだろう。それがいっぺんだな．．．
男 3 ．．．そうでございますね。
男 5 あの看守、様子もおかしかったですしね。

間。

男 2 つまりあの看守は、俺たちが他の看守に殺される前に逃がしてくれたってわけか。良心的なやつじゃねえか。

男 5 あり得そうな話ですね。囚人を脱走させて少しづつ間引いていくことが常態化していて、彼はそれに抵抗というか、我慢ができませんり．．．

男 4 でも．．う、う噂なんですよね、囚人をこ殺すなんて．．．

男 5 そうでした。しかしあの看守の行動の説明がつかますか？

男 4 そそれは．．．

男 2 待てよ。そういや、あの看守だけじゃなかったな、あと2、3名いたろ？ 鍵を開けてたやつ。

男 3 ．．そうでした。そうでしたです！ 確かに。仲間がいましたです。

男 5 刑務所内のクーデターみたいなものですかねえ。

男 2 そうか、段々わかってきたぜ。たぶん囚人の中にヤクザの物がいたんだな。親分クラスがな。そいつの手引きじゃねえかな．．だから今頃あの看守たちも安全に避難したんだろうよ。

男 5 (3に)あり得ますか？

男 3 ど、どうでございましょう。

男 5 我々は畏に引っかけたのではなく、偶発的な事故に巻き込まれた．．？

男 3 そう思いたいです。

男 2 あれだけの騒ぎを刑務所が意図的にやるわけがねえ。まさか囚人皆殺しを狙ってるわけでもあるまい。

間。

男 1 囚人全員の大脱走．．．

男 2 俺らは脱走じゃねえ、避難したんだ。

男 3 避難しましたですね．．それにしてもですね、思い出してみますとですね、『情報を待て』ですとか、『あれはガセネタだ』なんて叫んでる看守の方もいましたですね。

間。

男 5 それは看守が看守に言ったんですか？ それとも囚人たちに？

男 2 そりゃ、囚人にだろう。こいつの言ってる『戦争だ、殺される』ってのは『ガセネタだ』と。

男 5 『情報を待て』とは？

間。

男 1 やはり戦争の．．。

間。

男 2 (皆を見回して)おいおいおい、あんたら揃いもそろって妄想たくましくしてんじゃねーぞ。そりや道中の与太話じゃねえか。

男 5 可能性の話ですよ。

男 2 仮に戦争だとしても別にいいじゃねえか。そのお陰で務所から出れたじゃねえか。そんなことよりだな。重要なのは今現在、俺たちは務所から出てここにいるという事実だろ？

男 3 それはそーでございますが．．。

男 2 このあとどうするかが、重要じゃねえか。

男 3 しかし戦争かどうかは重要でございすよ。もしそういう報道が流れてです、それに看守が動揺したとしますと。

男 5 そのような報道を間違えて受け取った可能性もありますね。

男 3 となりますと、あの騒動はすべて早とちりの喜劇、ということになりますですね。

男 4 な、なにか他のことをせ、戦争とかか、勘違いした？

男 2 それはありそうだな。

男 5 例えば？

男 2 ヤクザ同士の抗争よ。血で血を洗う、昭和の伝説の数々。

男 5 男と産まれたからにはあの中に身を置いてこそ、

男 2 遮って)原発問題、大地震、火山、津波、飛行機事故、そこから辺りかもしれないね。

男 2 俺が喋ってんだよ！

間。

男 5 失礼しました。

男 2 ．．いやすまん。へっ、俺は何を興奮してんだろうなあ、務所から出れた嬉しさなんだろうなこれは。ようやくシャバの空気がこの体に馴染んできたのよ。笑う)いやすまんすまん、悪かった。でもあんたらだって嬉しいだろ、務所から出れて。え？ 笑う)

男 3 だからこそですね、知りたいのでありますが．．。

男 何をだ？

男 ですから、あの騒動の原因を．．。

男 ．．手前らはなにか、さっきから話を聞いてると、つまり戦争が始まってりやあ、その混乱に乗っかってそのまま避難すると。そうでなけりやあ、おとなしく務所に戻って牢屋に入ると。そーいうことか？

男 まあ、あなたから見れば情けないことでしょうけれどもですね、実際そーなのでございますよワタクシなんて。いつも通りの日本ならですよ、逃亡だなんてすぐ捕まりますし、その際に頭のおかしくなった演技なんて到底できませんし、却って刑期が長くなりますし、その、もっと根本的なことを言えばですね、ワタクシは逃亡しようと思うほど、残りの刑期が長くないのでありますね．．えー、どうですか皆さんは？

男 1 ボクもそんなところです。

男 4 ．．．

男 2 (4．5に) あんたら二人は長そうだな。どうだい、名前を変えるとか、整形するとか、海外に行くとか、そこら辺の考えはないのかい？

男 4 ．．．
男 2 ま、ご自由に。

男 2、窓板を全開する。薄く朝日が射し込む。降る雪。
追手の有無を確認し、

男 2 ますます強くなってやがる。窓板を半分閉める) さてと。どっちにしろ、もうしばらくはここで休憩だな。

男 5 随分悠長ですね、逃亡するにしてみは。

男 2 皮肉のつもりかい？

男 5 まさか．．。

男 2 考えろよ。俺らが務所を出て何時間たつと思ってるんだ。追手が動いてりや、とうに見つかってんだろ？ 向こうはヘリやら鼻の利くドーベルマンやら、山道専用の何とか車やら、とにかく色々あらあな。なんせ天下の国家権力よ。それがここまで音沙汰なしだ．．どう思う？

間。

男 3 やはり戦争が。

男 2 なわきやねーだろ！．．と、言いたいところだが、それはど

男5 っちでもいい。俺は務所の騒動がまだ治まっていないと思うがね。おそらく看守を人質に取って籠城してるか。ま、そんなところだろう。

男2 しかし。．．。
焦ると負けよ。山の向こうのふもとまで、晴れた日でもあと十時間以上かかる。この大雪でどれだけ歩けるってんだ。

男4 つ、積もると、もっとああ歩きづらいのでは？

男5 足跡もつきますしね。

男2 視界不良よりや、いいさ。やつらはまだ来ない。これは俺の勘だ。．．すべては運命よ。

男3 ．．男1に）あなたは戻られるんですよね？

男1 あ、はい。．．。

男3 男4に）あなたは。．．わからないと。

男4 ま、迷います。．．。

男3 男5に）あなたは。．．。

男5 ．．。

男3 男4に）では我々だけでも戻りましょうか？

男4 え。．．じ、じゃあ、じ自分も。．．。

と、三人、席を立つ。

男2 ホンとにそれでいいのかい？

男3 ．．しかし、他に良い案がありますですか？

男2 誰かがイヌなら他の二人は犠牲だな。

間。

男3 ちよ、ちよっと待って下さいませ。．．ワタクシが。．．まさか、あなた。．．。

男2 手土産に、二人。

男3 そんな言い方はやめて下さいませ。なぜワタクシが。．．そもそもワタクシ、残りの刑期は少ないと先ほど言いましたですよ、逃亡するほどではないと。

男2 前科の記録を抹消するっていうプレゼントもあるかもな。

間。

男3 こ、こんな侮辱は。．．そうですか、そうでございませるか、結構でございませぬ。それなら別々に戻りましょう。それならよろしいですね。

男 2　そしてチクるのかい？　この場所を。

男 3　（絶句）

男 5　・疑うことが許されるのなら、ここまで我々を引っ張ってきたのはあなたですよ。

間。

男 2　ほう。俺が務所のイヌだと？

男 5　減刑の見返りを持ち出されたとか？

男 2　言うねえ。しかしそうなるとあんたも怪しいぞ。だいたい務所で見かけた記憶がねえ。・あんた囚人の振りした刑務官か何かじゃねえのか？　え？

男 1　まさか。・。

男 2　一番、公務員面してるしな。

男 4　やや、止めましょう、な仲間割れは。

男 2　種を蒔いたのは（3に）そいつだけ。

男 1　そのまま逃走する人と、戻る人が同時に動いて別ればいいですよ？

男 3　いつ動くのですか？　それは誰が決めるのですか？

男 5　・どうやら堂々巡りのようですね。

間。

男 4　せ戦争が、は始まって、なら、か関係ない話になななりま
すね。

男 2　敵さんに攻め込まれていればな。

男 5　・どうなんでしようねえ。（ぞ外を見る）

男 2　ま、明るくなるまでもう少し待ってみろって。

男 5　（3に）私も、それが賢明だと思いますよ。

男 1、3、4、しぶしぶイスに座る。

間。

男 2　（伸びをして）あーあ、誰か花札かトランプでも持ってねーか。

皆、苦笑。

間。

男 4　お、お腹、空きましたね。

間。

男 3、ダッシュで外に飛び出る。

男 2、あとを追いかける。

男 1、4、ドアから玄関を見つめる。男 5は特に動かず。しばらくして男 3の首根っこを捕まえながら、男 2が戻ってくる。

男 2、男 3を床に放り出して、

男 2 てめえ、やっぱりイヌか！

男 3 何をおっしゃるんですか！ あなたのほうこそ我々をここにとどめてるじゃないですか！ 四人を手土産に一気に釈放させて貰えるのですか！

男 2 二、三本歯をへし折ってやろう。

男 5 待って下さい。真のヤクザは素人には手を出さない・道中、

男 1 あなたはおっしゃいましたよね？

男 4 双葉組にわらじを脱いで二十年。

男 4 ぎ、義理と人情。頼れる兄貴。

間。

男 2 けっ、今さら組の規律なんざ関係ねえよ。俺やもう、組からは破門されてんだ。

間。

男 5 敵の組長の息子を、殺し損ねたからですか？

間。

男 2 ことは複雑だ。仲間を裏切ったり騙したりしちやいけねえよなあ。仲間をよお。。。

間。

男 5 立ち入ったことですが、このまま脱走する動機はそのあたりですか？

男 2 ．．尋問か？

男 5 ゲームですよ。いわばランプゲーム。

男 2 ．．けっ．．俺には女房と、子供が三人いる．．つまり生活費よ。それを見てくれると約束してくれたんだ。組長、直々

男 5 にな。
男 2 なるほど。
その肝心の生活費が支払われてねえんだ。もう丸四年にもなるってのによ。

間。

男 3 契約不履行で訴えますですか？
男 2 組長と組員の間に契約書があるか馬鹿野郎！ 血判が全てよ．．．しかし4年も音沙汰なしたのは信義にもとるな。
男 1 誰か面会にきて話してくれないんですか？ その辺のところ。無理だな。看守もイヌだらけ．．．家族も遠くに避難した．．．敵に見つかりや、皆殺しだからな。
男 5 お金が支払われてないことは、どうやって知ったんです？
男 2 女房から手紙はくるからな。あいつは頭がいいから尻尾を掴まれることはねえ。毎回別の県からの消印でくるしな。もちろん内容は遠回しだ。だがそれでも充分わかる。金はまだ一銭も受け取っちゃいねえんだ。

間。

男 1 それはつまり．．．
男 2 何だ？
男 1 いえ．．．
男 2 いいか。喧嘩での殺しは死刑にはならねえ。だからその後の約束もしたんだ。

間。

男 5 ではジョーカーを出しますが：つまり刑罰の死刑ではなく、その最中にあなたが殺されると、上の人は考えていたのでは？
男 2 ．．．俺があいつらにか．．．
男 5 ええ。
男 2 皆に（おめーらもそう思うか？

皆、口ごもる。

男 2 つまり、何だ。おめーらはこの俺が組から厄介者扱いされて体よく追い出されたと言いたいんだな。いやそれともあれか、

殺しの仕事に失敗した報いを受けてるだけじゃねーかと馬鹿にしてるんだな！ このトーシロがよっ！

男 3 ちよ、ちよっと待って下さい、落ち着いて下さいませ、えー、違いますですよ、皆にねえ？我々の考えることなんてですよ、それこそ素人考えでございませうから、まあ、当たるも八卦、当たらずも八卦、ということでありまして・・・。

間。

男 5 しかし、そういう考えが頭に浮かんでるからこそ、このまま避難することを決断したのでは？

男 2 てめえ、少しにじり寄る。

男 3 ハ、ハートのキングでございますよ、ゲームです、トランプゲーム。

間。

男 2 (ため息)一度、殺されかけたことがある。あの務所の中で・・・どっちも何とか乗り切ったが・・・その刺客がやつらの組からなのかそれとも・・・未だにわからんのよ・・・。

間。

男 5 真実が知りたいですね。

男 2 そうだ。

男 3 こ、これ以上お聞きするのは野暮というものでございますね。

男 4 で、でしようね。

男 5 動機が明確です。

男 3 ええ。ワタクシどもとは違います・・・皆に) ですね？

皆、口ごもる。

男 2 何が違うんだ？ 逃げたいんだろ、ホンとはよ。毎日あんなメシ食わされてな・・・それも予算が減ったせいかな。

間。

男 2 それとも戦争で何もかも滅茶苦茶になったほうがいいか？

男 5 敵に攻め込まれることが前提ですね。

男 3 いや、そもそもですね、目茶苦茶になった方がいいのではな

男 1
いですか？ ワタクシたちにとっては何ですかね。いえ、ワタクシは逃亡するほどの者ではございませんけれどもですね、もし、何もかもチャラになるのであれば、それに越したことはないかと、ささやかながら考える者でして。その、(下に)あなたとは違うんですか？

男 3
え、いやしかし、ボクたちのことは様々なデータに。もしチャラになるとすれば、それは日本が本当に壊滅的なダメージを受けることで。。

男 5
(3に)あなた、罪は軽いんですよ？

男 3
ええ。。

男 5
前科なんて黙ってれば誰にもわからないではないですか。

男 3
それほどチャラにしたいのですか？

男 2
それはもう、したいですとも。いえね、ワタクシの場合、(口

男 3
ごもる)あ、いえ。。

男 2
話せよ。

男 3
. . . ワタクシ、万引きで捕まりました。。

男 2
手前、しようもない嘘を、

男 3
ホントなんです！ ホントなんですよ。

男 2
万引きで牢屋に。あ、強盗ってことか。あんた見かけに、

男 3
ホントにただの万引きなんです。スーパーで牛肉を。。

男 5
. . . が見つかって警察へ？

男 3
ええ。 . . 皆さんのいつ頃刑務所に入られたのかは存じ上げません、ワタクシは2週間前。 . . 今の社会の様子はご存知

男 2
ですか。 . . 毎日のように新たな罪名ができるのですよ。 . . 更新もされてます。 . . それより何よりですね、今、ネットでは

男 3
前科ある人の情報が筒抜けなんでございますよ。

男 2
. . . どういうことさそりゃ。

男 1
知ってます、それ。警察がわざと特定の人に犯罪者履歴にア

男 2
クセスできるようにしてるんですよ。そしてそれが拡散し

男 3
て。 . .

男 2
. . . つまり？

男 3
どんな小さな犯罪でも、記録がある人はもう隠すことができ

男 2
ないのです。 . .

男 2
ほう。 . . なるほどねえ。そうやって善良な市民が犯罪を犯さ

男 2
ないようにしてるわけだ。犯罪が勲章の俺らにや関係ないが

男 5
な。(笑う)

男 2
それでチャラにしたいと。

男 2
. . . 小さなもので。 . .

男 2
で、刑期は？

男 3
大したことはありません、残り2ヶ月半ほどです。 . .

男 2 つまり3カ月の罪か。たかだか万引きでなあ。じつに素敵な世の中じゃないか、え？ ま、昼寝してりゃあ、あつという間だな。

男 3 ええ、左様なことです。例え戦争が始まっていたとしても、取り敢えず刑務所には戻ります。雪が止みましたら。恐ろしい、しし社会、ですね。じ自分が言うのも、な、な何ですが。。

男 2 あんた、何したんだい？

男 4 . . . いえ、べ、別に。 . . .

男 2 そりゃねえなにいちちゃん。目の前の餅を取り上げちゃいけねえよ。

男 5 ここは取調室ではありませんよ。

男 4 す、すいません。

男 3 もっと軽い話にしますですかね。日銀が円安を誘導しているという話を、

男 2 ちよい待ちな。 . . . なあにいちちゃん、あんたこのまま行くか務所に戻るか、いまいちはっきりしてなかったな。 . . . 残りの刑期は？

男 4

男 2 おや、おかしいなあ、トランプゲームじゃなかったのかい？ こっちが出したら、相手も出す。だろ？

男 5 . . . 黙秘権行使というカードを出してますよ。

男 2 屁理屈言ってるじゃねえよ。ここは取調室じゃないんだろ？ に、2年です。

男 4 2年？ ふーん、短いねえ、それぐらいだったら何の躊躇もなく務所に戻るってとこだがなあ。あんた悩んでんだろ？ 行くか戻るか。 . . . 戦争が始まったら。 . . . なんてな。

男 4 . . . そうです。

男 2 まだ長いんだろ？ 残りの刑期。

男 4 . . . 十年以上。 . . .

男 2 (口笛吹いて) あんたあと十年もあの務所の中で暮らせる？ 十年だよ、十年。病気になって出所前に死ぬかもしれねえぞ。もう戻りたくないんだろ？

男 4 . . . はい。

男 2 じゃあ一緒に行こうじゃねえか。

男 4 . . . はい。

男 2 よくぞ言った！ 偉い！ 見所がある。よし、どうせ行くところねえだろ。俺の知り合いの所に紹介してやる。どうだ？

男 4 お、お願いします。

男 2 よっしゃ！ 男の約束だ。お前は俺の兄弟分だ。兄弟だ。

男 3 ちよっと、ちよっと！
男 2 何だい。

男 3 (4に) あなた本当に逃げる気でございますか？

男 4 はい。

男 2 避難だよ、避難。

男 3 どうしてでございますか？ ヤケクソになっではいけませんですよ。

男 4 ヤケクソではないです．．ただ、我慢できないんです。

男 3 我慢、でございますか？

男 2 万引やさんよお、あんまりむごいこと言ってくるなよなあ、若く健康体の男なんだぜ、兄弟はなあ、それをホモに走れというのかい。

男 3 ．．万引や．．。

男 5 (4に) そういうことなんですか？

男 4 す、少し違います．．自分、最初の、こ、公園の件のあと、その時のことを、一生懸命、わ、忘れようとしたんです．．。

男 2 だから公園で何したんだよ。

男 3 ふ．．婦女、暴行．．。

男 1 婦女．．。

男 2 つまりレイプしたんだろ。何だてめえ、この野郎、やってくれるじゃねえか、ええ、頼もしいねえおい。で何だ、忘れようとした？

男 4 ははい．．怖かったんです．．その時の、じ、自分の驚きと．．よ、喜びが。

男 3 喜び！

男 2 (拍手する) 目覚めたんです、皆さん。さなぎが蝶に変わったんです。脱皮したんだよ兄弟はその時にな！ 悪党誕生物語。いや、じつに感動的な話じゃねえか、ええ．．そうか、それでまた、やったんだな？

男 4 は、はい．．。

男 2 何人ぐらいやったんだ？ ん？

男 4 ろ、六人です。

男 2 ブラボォー、ブラーボォー、それで七人目で捕まった？

男 4 はい。

男 2 聞きましたか皆さん。兄弟は大物だ。見込みがある。まあ今まではドモリのせいで色々と恥をかいたり、屈辱を味わったりしてきたわけだ。特に女には手も足も出なかった。そーだろ兄弟？

男 4 そうです。

男 2 女ってのは自分のことを笑ったり馬鹿にしたり、恥をかかせ

男 4 たりする、わけのわからん生き物だったんだよな？
まさしく、そ、そそうです。

男 2 それが今や、逆に女をはずかしめる立場になったわけだ。人生の大逆転、おめでとうござんす。いやー俺なんかより立派に罪を重ねておられる、うん。『速う前にやれ』これ組長の言葉な。

男 5 やはり、そうなんですか？

男 4 いえその、ちよっと、違うんす。た、ただ、説明が．．。
男 2 心配すんな兄弟、俺が代わりに説明してやる。いいかい、せこましい社会に従って生きるよりも、自分の本能に忠実に生きる。これはほぼ万人に共通の望みだろ。

男 5 つまり？

男 2 つまりとは何だ。世間のルールを暴力で突破する快感ってことよ。世間の檻をよ。

間。

男 2 わかんねえか？ 兄弟は自分の生きる道を見つけたのよ。そして兄弟をを傷つけてきたのは女だったのよ、男じゃねえ。

男 4 その復讐するチャンスを十年間も無駄にできるか？ できねえ相談だよな兄弟。

男 4 はい。

男 2 そーだとも、そーだとも。

間。

男 3 何と言ったらいいのでしよう、正直呆れますですね。その、です、ね、あなた、またすぐにでも女の人をレイプしたいから逃亡するなんてですね．．それにまたすぐ捕まりますですよ．．そしたらですね、次に出所するのは老人になってからでございますよ。

男 4 し、知ってます。

男 2 万引やさんよお、わかりが悪いな、

男 3 あの！ ワタクシはもと銀行員でございます．．。

男 4 ．．そうかい。じゃ、銀行屋さんよお、いいかい、兄弟は解放されたんだぜ、自分の力と勇気だな。こう、自分を押しえつけていたものを振り払ったのよ。なあ兄弟。

男 4 はい。

男 2 その目覚めた能力を充分に発揮させてくれる場所に行くんだよ。

男 5 あなたが何をしようとおあなたの勝手ですが、できるんですか、その、ヤクザ的なこと。

男 4 . . . もう、以前の自分に、も、戻りたいとは思わない . . . まあ、戻れませんけど . . .

男 3 ワタクシの乏しい人生経験からの意見ですけれどもですね、あなたが今後ずっとですね、悪を為して生きていくことにはですね、人生の収支としては割に合わないと思いますですよ、はい。

男 5 真面目に刑期を勤めても、出所するときはまだ三十代半ばとあったところでしよう？ やり直しは充分可能だと思いますよ。それを棒に振って、

男 2 おいおいおい、あんまり俺を笑わせようとすんじゃないよ。皆、同じ穴のムジナ、犯罪者じゃねえか。しかも何だ。服役中の身で囚人仲間を更生させる話か。笑う）出来すぎた話だな、落語にでもするか。笑う）

間。

男 1 そんなにいいですか？

男 2 何だ？

男 1 ヤクザな生活はそんなにいいものなんですか？

男 2 どうしてよ。

男 1 その、彼に勤めるくらいですから、よほどいいのかと。

男 2 俺にとっちゃいいわ少なくとも。性に合ってるってこった。

男 5 向き不向きですよ。我々小市民にヤクザな生活は無理です。

男 2 さすが先生。

男 5 先生？

男 2 よく見るとあんた教師っぽいからな。違うのかい。

男 5 違います。

男 2 そうかい。でも先生っぽいから先生でいいじゃねえか。笑う）生徒にセクハラでもして首になった口じゃねえのか。

男 5 大はずれです。

男 2 じゃ、何したんだい。

男 5 . . .

男 3 あの、確かにワタクシどもはルールに縛られた、せせこましい社会で窮屈な生活をしているのかもしれないです。ま、しかしですね、それは安全のためでございます。

男 2 ほか。

男 3 個人が我を通せば、争いの絶えない社会になります。皆が謙虚になることで争いを避け、平和と安全を確保している

男 2 わけです。はい。

男 3 だから窮屈でも仕方ない。

男 2 代償は払わなければなりません。

男 3 笑う）あんた払ってねえから今ここにいるんだろ。

男 2 そうです。今、払っております．．後払いで．．。

男 3 たかが万引でな．．仕事を失い、サツと検事に仕事を提供したわけだ。

男 3 真面目に生きていけば、警察は我々庶民の味方でございます。

男 2 嘲るように）表向きはな。

男 3 ．．そ、それはどど、どういう．．。

男 2 恐怖政治を敷きたいつてのが奴らの本音だからな。それが直接できねえもんだから、俺らの存在も意味があるってこった。

男 3 ご冗談を．．。

男 2 俺らが小悪党を掃除してくれりゃ、自分たちの仕事も楽になるだろ。ま、共存共栄ってやつよ．．分かりやすく言えば、昔、赤線地帯ってのを排除して、その結果どうなったよ。今や素人の売春、花盛りじゃねえか。俺らがいなくなるとどうなる。わかるだろ。

男 4 け、け、警察が味方ですか。さ、最強ですね。

男 2 なわきやねーだろ、兄弟。権力は怖いんだぜ。だからヤクザは権力大好きでな。天下り先の席はいつも用意してあるんだぜ。

男 5 昔は暴力団といっても、ある程度、市民生活に溶け込んでる感じでしたが、今は地下に潜った感じを受けますね。

男 2 それは仕方ねえ、時代の流れよ。ま、しかしちよいと臭いものに蓋をしすぎなんじゃねえか。いくら見た目が綺麗になってもクソはクソ、小便は小便、ばい菌はばい菌よ。

男 5 弁護してるんですか？ 御自分の立場を。

男 2 ．．弁護するほど後ろめたい生活送っちゃいねえぞ。

男 3 そんな、暴力で物事を解決する人に言われましてもですね。

男 2 のん気なこった。言っとくが世間は暴力が支配してるんだぜ。

男 5 なんの理屈ですか？

男 2 警察よ、警察。あいつらは最大の暴力組織よ。だから世間は暴力が支配している。

男 5 共存共栄の仲では？

男 2 その辺の機微を知らん、正義の味方気取りの奴がいてな。そこが厄介なところよ。

男 3 ．．それはわかりますですね。国の正義を背負ったつもり
の検事なんかそれはもう、ワタクシなんかゴミ扱いで．．失
礼．．咳払い）しかし妙な理屈でございますね。警察という

のは暴力を止めるために、

外で飛行機の轟音。皆、反応する。

男2、皆を牽制する。

男3、両手をあげて、逃げません、のそぶり。

男2、窓板を全開し外を見るが、よく見えないので上手ド

アより外に出る。男5以外、全員続く。

男5、のんびり窓から外を見たり。

皆、慌ただしく戻ってくる。

男5 どうでしたか？

男3 パパ、パラシュートが．．。

男5 パラシュート？

男2 雲と雪でよく見えねえが．．飛行機からパラシュートで人間

が降りてきたな．．一五、六人はいたか？

男4 い、い、いました。

男5 追手ですか？警察？

男2 さあな。只の訓練かもしれねえぞ、自衛隊の。

男5 近くに？

男2 いや。距離はだいぶ離れてんな。

男1 あの飛行機．．民間のやつではないですもんね。

男3 民間機が編隊を組んで飛ぶはあります。ましてや

パラシュートが．．。

男2 だから自衛隊だろ？

男3 別の国の戦闘機かもでございますよ。

男5 アメリカのかもしれないね。

男3 中国のかもしれないよ。

男2 丁度いいな。刑務所に爆弾落として貰えばいいじゃねえか。

男4 何もかもチャラだぜ。

男2 動揺して）や、やはり戦争が、は、はは始まっているすか？

男2 ．．まあ落ち着け。

男3 ロシアのかも．．。

男2 なら、あのパラシュート部隊は敵が日本に上陸してるっての

か？

男5 合同訓練でしょう、日本とアメリカの。

男2 止めるやめろ、きりがねえ。どこのだっぺいいじゃねえか。

男3 戦争が始まって何か困んのかい。

男3 困るとかでは．．。

男2 なんと少しでも生き残りやいいだろ。

男3 あの飛行機、今頃市街地を攻撃してるかもですよ。

男 2 . . .やはりあの看守の行動は . . .
男 5 戦争で敵に殺される前に逃げる . . .という意味だったので
かねえ。

男 2 (笑う)行くも地獄、引くも地獄は世の常、人の常よ。

男 1 そんな絶望的な . . .
男 2 地獄も絶望もお互い様ってことよ。天国にいるやつあ、人間
じゃねえんだからな、地獄で充分、地獄で上等、人間っての
はそもそも、

男 3 あの！ そんな話、ワタクシは嫌いでございます . . .すいま
せんです . . .。

間。

男 2 立って窓の外を気にしつつ)警察の話だったかな？

男 5 そうです。

男 2 そうそう . . .だからつまりだな、警察ってのは日本で一番大
きな暴力装置よ。怖い怖い。あんたら、何かことが起きりゃ、
警察呼ぶだろ？

男 5 呼びますね。

男 2 その為にかじめ料払ってんだもんなあ。怖いねえ、手前の
飼ってる犬を相手にけしかけるわけだ。日本最大の暴力組織
を手なずけているわけだ。怖いねえ、一般人てのは。

男 3 . . .必要なきだけですよ。

男 2 でも務所に入れられたわけだ。飼い犬に手を噛まれたってわ
けだな。(笑う)これであんたらも立派な犯罪者。前科者。つ
まりばい菌よ。

男 3 . . .大変失礼なことを申しませんがご容赦くださいませ。あな
た様と同じにされるのには少々、不満がございますです。ワ
タクシの罪は万引です。

男 2 同じだった。あんた前科を公表して今後生きていけるのか。
敢えて公表する必要はないと思いますです。

男 3 ま、あんたら全員初犯だろ。自分がばい菌扱いされてると自
覚するのも、世間に戻りや時間の問題よ。しかもネットとや
らで、全部筒抜けなんだろ犯罪が。(うに)あんたも万引の類
いか？

男 1 え . . .いやボクは . . .。

男 2 恥ずかしくて言えねえ犯罪もあらあな。幼女にいたずらでも
したか。

男 1 してませんよ！

男 2 怪しいな。あんたもしかして変質者か。

男 男 男
1 5 1
！
我々は同じ穴のムジナですよ。

男 1
．変質者でもありません．あの、やはりボクたちは社会

男 2
に帰ると、ばい菌のような扱いを受けます？

男 1
論より証拠。社会に戻ってみるこった、逃亡なんかせずにな。

男 5
不安ですか？

男 1
不安というか．ただの禊のつもりだったし．．。

男 2
何の罪だ？

男 1
．その、ボクは、風紀紊乱罪で．．。

男 2
ふーき、びんらん？

男 5
社会の秩序や道徳を乱れさせた、ということですよ。

男 2
笑う）なんとまあ、悪いやっちゃ。俺とは正反対の罪だな。

間。

男 男
2 3
．．．エクスキューズ、ミー？

男 2
ん。だってそうだろう、俺らのやってることはすべて社会の

男 3
安定を目指しているんだからな。何と言ったらいいかな．．

男 2
社会をきちんとさせるといふかな。

男 3
．．．エクスキューズ、ミー？

男 2
何だ手前！

男 3
ソーリー！

男 2
いいか．．務所に入る前の話だけどな．．それは当たり前か。

男 3
俺の家によお、ま、アパートだけどな、犬が小便しやがって

男 2
な、敷地内だぞ、建物の隅っことはいえな。それが野良犬な

男 3
らまあな、蹴っ飛ばして終わりだよ。ところが飼い主がいた

男 2
んだよ、そこにはな。それなのにだぜ、知らん振りして立ち

男 3
去ろうとしやがった。

男 2
それで、どうされたんですか？

男 3
手前、舐めて掃除しろっつてな、こう頭を掴んでペロペロ

男 2
舐めさしたんだよ。そしたらそいつ吐きやがってよお、余計

男 3
汚くしてんのよ。で、しょうがねえからそいつの服脱がして

男 2
それで拭かせたんだ．．しょうがねえよな。

男 3
．．警察呼ばれたり、訴えられたりしたのは？

男 2
そんなへマするかよ。すぐそいつの免許証、確認したしな。

男 3
大体、犬と散歩してるってこたあ近所の人間だろ。俺の縄張

男 2
りに小便させてんじゃねえって話だよ。

男 3
．．何の話だったでしょうか？

男 2
社会をきちんとさせる話だろ。

男 5 いえ、彼が風紀紊乱罪で刑務所に入った話です。
男 4 そ、そーでしたね。

男 2 そーかい。で何だ、あんたも所構わず立小便でもしたのかい、
交番の前とか。(笑う)

男 1 いえ・ボクは、デモしてたんです。いわゆるヘイトなデモ。
男 2 ・日本語に訳せ。

男 5 よくニュースになったりするあれですか？

男 1 はい・シナ人や朝鮮人は日本から出て行けー、みたいな。
男 2 何じゃそりゃ。(変な発音で) シナジン。

男 3 シナジン、ではなくシナ人、でございますね。中国人のこと
であります。

男 2 そうかい。で、そりゃ、・(3に) 今馬鹿にしたろ。
男 3 しておりませんです、はい。

男 2 ・(1に) そりゃ何の為にだ、嫌いなのか外人さんが。
男 5 失礼ですが、新聞を読んだりニュースを見たりはしません

か？

男 2 ・聞いたか兄弟。先生まで俺を馬鹿にしやがる。素人さん
ってのはチョイと対等に話しが出来ると思うとすぐ凶に乗り
やがる。

男 5 馬鹿にしてなんかいませんよ。あなたの言ったとおり、今の
我々は犯罪者仲間。彼の話は割りと頻繁にマスコミに流れる
話ですから、知らないのは意外だなと思っただけです。

何だ、有名な件なのか。

男 2 それはもう、なかなかのものです。

男 3 それを早く言えよ。よし、続き。

男 2 ・デモで知り合った女の子と手を繋いで歩いてたんです。

男 1 デモの最中にですね。それが仲間の怒りを買ってですね・

リンチされたんです。

男 3 リンチ？

男 2 仲間にか？

男 1 はい。どうやら団体のリーダーがその女の子、好きだったよ
うでして。それをボクが横取りしたと。集団の秩序を乱した
といわれてですね。で、許す代わりに警察に行けといわれま
して。

男 2 何のためにだ？

男 1 その団体に警察の手入れがある予定だったらしいんです。で、
誰か一人差出すようになって話になったらしくて・ま、生贄
としてですね。

男 3 いけ・スケープゴートにされたんですね。

男 2 カッコつけて横文字にしてんじゃねえよ。生贄でいいじゃね

男 1 えか．．で？
ええ。それで団体の罪の風紀紊乱罪と、あと共謀罪．．だったかな、その責任者ということだ。

間。

男 2 それでよかったのかい、あんた。

男 1 それで丸く治まるのならと。

男 2 女も諦めたのか？

男 1 ．．。

男 5 あなた、どうしてその団体のデモに参加したんですか？ 本

男 3 当に彼ら外国人を嫌っていたんですか？

男 1 本気だったような．．徐々にそう思うようになったような。

男 3 しかしですね、それは儲けになる活動なんでしょうか？ 収支に

合わない行動は控えるべきだと思いますですね。時は金なり、
でございます。

男 2 あんたも仲間に裏切られた口か．．で、刑期は？

男 1 ．．あと2年．．。

男 2 ．．馬鹿だなお前は．．大馬鹿だ。

男 1 ．．はい。

間。

男 2 (窓の外を指して)おい．．ありや何だ？

皆、窓から外を見る。

男 3 み、み、ミサイルでは？

男 5 ロケットが落下してるように見えますね。

男 1 ロケットミサイル．．が、落ちるんですか？ 向こうに。

男 4 ばばば、バクダン、ですか？

男 3 か．．核爆弾！

皆、顔を見合す。

男 1 あー落ちる、落ちる。

男 3 隠れましょう！

と、イスを持ち、イスで身を隠しながら窓から離れて床に
座る。

男 2 何て臆病な．．よし、隠れよう。ぞイスを手にも上手前へ）お
い、窓を閉める窓を！

男 1、窓を閉めて、4とともにイスを持ち、上手前でイス
に隠れる形。
男 5、それを見て、ゆっくりと机を倒して、それに隠れる
形。皆、それを見て、イスとともに机の後ろに移動する。
間。

男 2 落ちたか？
男 3 どうでしょう．．。

間。

男 1 暖炉に隠れたほうが、より安全かも。

皆、顔を見合い、無言で机、イスとともに暖炉前に移動。

男 2 まだか？
男 3 そう言われましても．．。
男 2 ちよっと見てこいよ。
男 3 そんな！ ワタクシ肌が弱いのですよ！
男 2 ．．じゃあ坊ちゃんよ、ちらっと、
男 1 ボクは目が弱いんです！ 強烈な光は毒なんです！
男 2 ．．おい兄弟。早速仕事だ。
男 4 な、なな何の、し、仕事ですか？
男 2 偵察だ。ちよっと外、見てこいよ。
男 4 じじ自分は．．頭が、弱いです。
男 2 ．．なら大丈夫だ。
男 4 ししし、しかし、まだ、兄貴とは正式なち、契りを結んでは、
男 2 馬鹿野郎！ 演歌うたってんじゃねえよ。俺のために死ねね
えのか？
男 4 し．．し．．死ぬ、ですか．．。

男 5、ゆっくりと立ち上がり、

男 5 (皆に)開けますよ？
男 2 お．．よし、開ける。ぞ目を瞑る)

他の人もそれを見て、目を瞑る。

男 5、窓を開け、外を見る。

男 2 どうだ？ 周りは火の海か？
男 5 いえ。雪の海ですね。

皆、目を開け、机から恐る恐る顔を出す。

男 3 爆発．．してませんか？
男 5 どうやら。

皆、ため息。男 2、我に返り、慌てて立ち上がる。

男 2 くっついてんじゃねえよ、手前ら．．(5に)不発弾か？

男 5 どうでしょう。仮に核爆弾だったとしても．．海に落ちたの
かもしれないね。

男 3 ではやはり、北朝鮮からの．．？

男 5 しかし、あれの正体は不明ですよ。

男 1 飛行機が墜落したのかな？

男 2 (3に)手前、オーバーに騒ぎやがって！ 何が核爆弾だこの
野郎！

男 3 すいませんです．．。

男 1 傍白)落下傘に落下物．．引力か．．。

皆で、机、イスをもとに戻す。

男 2 以外はイスに座る。

男 2 は立ったまま、窓から外を見張る。

男 5 最近、戦争に繋がるような緊迫した事態がありましたか？

男 3 大ありでございますよ。今、世界は一触即発の雰囲気ではあ
りませんか。どこもかしこもテロと、恫喝だらけで．．。

男 2 わかったわかった！ じゃあ戦争が始まったとしよおじゃね
えか。今現在、日本は戦争中であると．．で、どおする。

男 3 それはワタクシが是非皆さんにお聞きしたいところでござい
ますよ！

男 4 勢いよく立ち上がり)自分！．．山を、降ります！

間。

男 2 ．．だから俺と一緒に降りるんだよ。

男 4 そしてじ、自分は！．．じ自衛隊に入りますっ！

間。

男 2 中々の切れっぷりだな兄弟。笑えるぞ。

男 5 戦いたいんですか？

男 4 自分は！．．こ、この、日本に、爆弾が、落とされて、ほ

しくは、ありません！

男 2 おいおいおい！ お前、レイプ犯のくせに何言ってるんだ。お

前みたいな奴が、しかも逃亡犯がまともなことしようとして

も無駄なんだよ。

男 4 き、緊急事態であります！

男 2 ．．馬鹿は馬鹿のままにいるのが一番利口なんだぜ。

男 4 そそうです！ 自分はば、馬鹿なんす。た、体力だけが唯一

のとと、取りえです。そして自分はは、犯罪者です。し、し

かも、そんな今の、自分が、前の自分より、好きなんす。

ももう、まともな、社会生活はむ、無理なんす。そ、それで、

いつ死んでもいい、という心の準備は、していたんす。

男 2 だから俺が死に場所を準備してやるつつつてんだろおが！

男 4 あり、ありがとうございます兄貴。た、ただ、今、戦争の話

をき、聞きました、く国の為に戦って、し死ぬのもいいなど、

一瞬で、体の血が、逆流する感じに、なったんす。

男 2 国じゃなく、組長の．．咳払い）会社の為に死ぬんだよ。

し、社会に迷惑をかけた、じ自分すから、国の為に戦って、

男 4 そ、それで、し、死んでも、悔いはないだろうと、お思える

のです！

男 2 ．．戦争が始まってなかったらどおすんだ。

男 4 その時は．．お、お世話になります。

男 2 ．．お前はホンとにしよおもねえ馬鹿だな．．よし！ じゃ

あ、戦争なのかどおなのか、取り敢えず山を降りるか。

男 4 はい！

男 1 行くんですか？ まだ降ってますけど。窓外を指して）

男 5 もう少し様子を見てはいかがですか。

男 2 俺たちや遠くに避難するんだ。のん気にお喋りするのでもこれ

までよ。

男 1 男 4 に）気持ちは．．わかります。

男 4 そ、そーすか。

男 2 (3に）あんた、例え無事に務所に戻れたとしてだな．．出

所後はどうすんだい？

男 3 ．．もちろん仕事を探してですな．．。

男 2 万引の前科ありとして、針のむしろで過すか？ ．．あんた

男 3 俺のところはこねえか？

男 2 . . . は？

男 3 元銀行屋なんだから金の計算に強えだろ。俺が世話になる予定の組、じゃねえ、会社の姉さん . . . もとい社長夫人がよく言っただんだよな、そういう奴が欲しいってな。

男 2 ブ . . . ブラックジョークでございますねえ (空虚な笑い) . . . 刑務所にいる誰も彼も誘う悪い癖がおりるのよう . . . あいにくですが間に合っておりませす。

男 3 強がんじゃないねえよ。どうせ家族にも見捨てられた口だろ？

男 2 家族は！ . . . 妻と子供は . . . 必ず戻ってきますです . . . あの件は . . . ストレスからの、不可抗力なのです . . . ちゃんと説明すれば . . . 。

男 3 わかってねえなあ。罪の大小問わず、実刑の判決が降りた時から、社会はあんたと縁を切ったんだぜ。こっちに來いって。墮ちた警官なんかよく来るぜ。

男 2 ワタクシは墮ちてなんかおりません！ . . . です . . . 。

男 5 (冷笑し) まあいいさ。

男 2 戦争でも何でも、あなたの生きかたは変わらないようですね。今さら何を変えるんだ。こちらら十代の頃からずっと戦争状態よ。牢屋の中でもな。

男 1 でも、家族が . . . 。

男 2 砂漠で井戸水が出ることもあらあな . . . 坊ちゃんよ、大人になつたらへその緒は自分で切るもんだぜ。

男 1 え？

男 2 さてと . . . お、そうだ、先生よお、最後にもう一度聞くが、あんたの罪は。

問。

男 5 親殺しです。

問。

男 2 (笑う) いいね先生。大した札だ。俺からジョーカーを出してえが、あいにく時間がねえ。どうする、一緒に山を越さねえか？ いや、仲間になれってんじゃねえんだ。どうせ無期懲役だろ。このまま俺らと行ったほうがよくねえか。

男 5 . . . いえ。私は罪を償います。

男 2 そうかい。ま、勝手にやってくれや。(3に) 出所後、神岡駅前の上海って麻雀屋にくればいい。そこで俺のことを話せ。

務所で一緒だったとな．．さてと、じゃ、皆達者でな。行くぞ兄弟。

男 4 はい！ では皆さん、お達者で。

男 5 最後に一つ．．あなたにとっての真相が最悪の結果なら．．どうされますか？

間。

男 2 もう一花咲かせるまでよ．．じゃあな。

男 2、4、上手より退場。

玄関のドアの音。

間。

男 5 行ってしまいましたね。

男 3 親殺し．．？

男 5 ええ。

男 3 まさか両親とも？

男 5 両親ともです。

男 3 何てことでしょう．．何てことでしょう．．なぜでございましょう。

男 5 ありきたりな話ですよ。介護疲れというやつです。

男 3 ありきたり？．．つまり発作的に．．でございますか？

男 5 どうだったでしょうか．．真相は私の心の奥、深くに沈んで

しまいました．．とにかく私はほとんど寝たきりの両親を、包丁で交互に、

男 3 やめて下さい！．．よろしいです、結構でございますよ、具体的に話さなくとも、

外で鋭い銃声、7、8発。

三人、硬直し、互いを見合う。

男 1 追手．．ですか？．．それとも．．。

男 3 お、追手がきたのですよ、あの人たちは殺されたのですよ、

我々も殺されるのですよ！

男 5 逃亡はしてません、避難していたのです、と言えがいいので

男 3 しょう？

男 5 ．．それで通じますか？

男 1 他に言いようがありませんしね。

追手じゃなかったら．．？

間。
男 1、恐る恐る窓から外を伺う。

男 1 ここからは何も．．外、見てきます。

男 1、上手ドアから外に出る。

男 3は怯えている。男 5は泰然と。

少しして、男 1、戻ってくる。

追手と思い、男 3は下手前まで下がる。

男 1 やはり雪で何も見えません．．遺体も．．。

男 5 猟師が獣を猟銃で撃っただけかもしれません。

男 1 ．．．。

間。

男 1 やっぱりの騒ぎは自作自演だったんじゃない．．。

男 5 囚人をまとめて殺すための？

男 1 はい。

看守たち自身の危険はどう説明できます？

男 1 です。だから彼らも知らなかったんですよ、自作自演のことは。

間。

男 3 ど、どういうことですか？ 看守も犠牲にしたと？

男 1 ある程度、看守が犠牲になれば、多くの囚人を殺したとして

も、国民は納得する．．。

男 3 だ誰ですか、誰がそんな大それた計画を．．。

男 1 さあ。ただの想像です、ボクの。

間。

飛行機の轟音。男 1、3、反応する。

男 5はそのまま。

男 3 ワタクシは今のあなたの説には納得できません。きっと戦争

男 5 が始まってます、世界が終わります、人類は破滅です。

男 3 もしそうなら、生き残れば犯罪記録がチャラになってますよ。

男 3 ．．それも、そうでしたですね。

男 3、ウロウロ歩きながらぶつぶつ言っている。

男 1 本当に逃げないんですか？

男 5 そんな気力はありません。戻る気力もありませんが。

男 1 ここで死ぬ気なんですか？

男 5 . . .

男 1 無期懲役だからですか？

男 5 . . .

男 1 後悔してますか？

男 5 . . 親を殺したことでですか？

男 1 はい。

男 5 さて、どうでしょうか？ あれからもう5年経ちますが、未

だに心の無感覚状態が続いてます。心の動きがまったくない。

恐らく私は精神的にはすでに死んでいるのです。ですから後

悔もしていないことになるのでしよう。

真相は心の奥、深くに . . .

男 1 自分なりに探しているつもりなんですがね。体が拒否してい

男 5 るのかもしれない。

間。

男 1 きませんね、追手 . . .

男 5 やはり猟師の銃の音では？

男 1 . . だといいですけど . . .

男 3 あの、お話中、申し訳ありませんけれどもすね、その、プ

ライベートな話をする前にすね、どーするかを、決めると

男 5 いうのはどうでありましようか？

男 3 どうしたいですか？

男 5 で、ですからそれをすね、決めるための会議をすね、

男 5 あなた、どちらにしろ刑務所には戻られるんですよね？

男 3 え、ええ、はい。

男 5 なら、それでいいではありませんか。

男 3 ただですな . . 家族がすね . . .

男 5 何にせよ、山を降りないと何も確認できませんよ。

男 3 あなたは、あなたはどうかされるのですか？

男 5 私はせっかく大っぴらに外の空気が吸えるのですから、とも

男 3 かく雪が止むまではここにいます。(1に) あなたは？

男 1 あ、はい . . 同じです、今戻っても、雪の中で道に迷うかも

男 3 しれませんし。

男 3 の、のん気でございますね、戦争でございますよ、戦争で。

男 3、またうろろ、ぶつぶつ。

男 1 戦争が始まって日本がぼろ負けなら．．すべてキャラ．．
男 5 あなた、あれは自作自演だと。

男 1 確信はないです．．。

男 5 ．．私の中には五年前に、原子爆弾が落とされていますよ。

男 1 ．．。

男 5 自分で落としたんですけれど。

男 1 ．．。

男 5 ．．それがキャラになるなら、どんな出来事も大歓迎なんですけどね。

男 1 ．．これ、トランプゲーム？

男 5 ．．そうですね。

男 1 ．．親を殺す前になぜ介護をやめなかったんですか？ 施設
男 5 に入れるとか．．お金の問題ですか？

男 1 いいえ。

男 5 じゃ、なんでですか？

外で飛行機の轟音。

男 1、5は少し反応するだけ。男 3は過剰に反応するが、
外には出ず、耳を塞いで怯える。

男 5 私は介護をすることによって親に依存していたんです。今思
えば親を利用していたんですね。介護を手段とし、親に依存
していたのです．．そして当然、両親も喜んで、感謝してい
ると思っていました。

男 1 ．．。

男 5 おそらく両親は、私が自分たちを利用していていると感じてい
と思います。もちろん直接には何も言いません。言えなかつ
たでしょう。そのイライラ、もどかしさが．．つまり最初か
ら私への攻撃だったのだと今ではよくわかる．．私に対して
本当は何が言いたかったのか．．いつまでも親に依存する息
子を、不甲斐なく情けなく思ったでしょうし、利用される立
場になった自分たちの境遇も悔しかったのでしよう．．しか
し．．当時、私にはその声は聞こえませんでした．．。

間。

男 3が割って入ってくる。

男 3 ああ！ ちょっとよろしいですかすみませんです。ワタクシもう、情報のないことにこれ以上耐えられませんです。です。すね、取り敢えず刑務所に戻りたく思います。

男 5 そうですか。

男 3 それに今、思い出したのですが、あの刑務所には地下シエルターがあるという噂でしたです。聞いたことありませんか？

男 5 いえ、私は。

男 1 ボクも。

男 3 今戻ればそこに入れるかもしれないですよ。

男 5 まだ戦争かどうかわかりませんよ。

男 1 奥さんと子供は．．。

男 3 すべて命あつてのものだねでございますよ。ワタクシは生き残る可能性の高いほうに合理的に動きたく思います。

間。

男 5 燃えてる薪を二、三本持っていきなさい。足跡は消えてると

男 3 思いますが、方角は大丈夫ですか？

男 5 何とかしますです。薪を2本、持つ。

男 3 人影が見えたら、降参のポーズをとるのが賢明かもしれませんね。

男 3 はい．．では、色々ありがとうございます。雪が止んだら御二人も戻るのでございますでしよ、刑務所に。

男 1、5、顔を見合わせる。

男 3 奇妙な小旅行になりましたですね．．では、お先に失礼致しますです。

男 5 お気をつけて。

男 1 あ、玄関まで行きます。

男 1、部屋のドアを開ける。男 3、先に部屋を出る。

男 1、後を追う。

さよなら、とか、では、という声が少し聞こえる。

静寂。

男 1、戻ってくる。

男 1 山の中で雪が降っていると、ホンとに時間がわかんないですね、暗くて．．今、朝方ですよね？

男 5 そうですね。

男 1 . . . 色々聞いちゃって、どうも。
男 5 ゲームですよ、気にせず。
男 1 . . . 事件の後 . . . 変わりました？
男 5 体の反応は変わった気がしますね。神経が死んだように寒さもほとんど感じないので . . . 心に実体はない。唯一の手掛かりであるこの体も直に消えて無くなります。それ以上も以下もない。

間。
飛行機の轟音。二人、少し気にする。

男 1 ホンとに始まっているのかなあ . . .
男 5 . . . 未来のあるあなたにとっては大きな(出来事)

外で鋭い銃声、4、5発。
二人、しばし硬直。
男 1、窓から外を見て、上手のドアから外に出る。
無表情の男 5。
男 1、戻ってくる。

男 5 どうでしたか？
男 1 音を横に振りつつ)何も . . .
男 5 偶然にしてはタイミングのいい銃声ですねえ。
男 1 ボク等は . . . やはり処刑されるんですね . . . 彼らの的なんです
すね . . .
男 5 彼らとは？
男 1 . . . 刑務所の . . .
男 5 何の証拠もないですよ . . . この辺は少なくとも狼がいますか
らね . . . それを撃ってるのかもしれない。
男 1 狼 . . . ですか？
男 5 ええ。ここにくる途中、少なくとも2名が二匹の狼に食われて死んでいます。覚えていませんか？ 我々の30メートル
くらい後方で。
男 1 . . . いえ。覚えていません。
男 5 そうですか。我々は彼らの犠牲のもとに、ここにたどり着いたのですがねえ。

しばし無言。

男 5 仮に戦争が始まってるとして . . . あなたの出所後の生活はだ

いぶ違ったものになるんでしようねえ。

男 1 . . . え？

男 5 私の両親と同じ苦勞をしなければよいの（ですが）

男 1、弾かれたように、立ち上がる。

男 1 そうだ！ ボクは何をボーっとしてるんだろう！ 日本が攻

撃されれば、皇居が . . . 皇室が . . . 陛下が . . .

男 5 皇室？

男 1 . . . ボクは . . . ボクは刑期を終えたら . . . 天皇制打倒の活動
にこの身を投じようと決めたんです。

男 5 ほう。いつ決められたんですか？

男 1 今です！ . . . 笑ってくれてもいいんです。でももう決めた
んです。

男 5 ではますます都合がいいではありませんか。

男 1 え？

男 5 戦争に負けると相手の国が皇室をなくしてくれるのではあり
ませんか。あなたの手間も省けます。

男 1 駄目です！ それでは駄目なんです！

男 5 何か恨みでも？

男 1 . . . 刑務所に入ってから、皇室関係の本を少し読みました . . .
で、気づいたんです。ボクの弱さは道徳的であることだと . . .
そうでなきや、彼女のことあんなにあっさり . . . これ皆
のためだと自分に言い聞かせて . . . その日本の空気を作り出
しているのが皇室だと . . . ボクは、ボクは、自由と民主主義
という恫喝の言葉で沈黙します . . . ボク個人は . . . そんなこ
と言われても手も足も出ないんです . . . だから団体に所属し
たんです . . . 『耐えがたきを耐え、忍び難きを忍んで』きたわ
けです . . . それにずっと縛られているわけです . . . それだけ
天皇陛下の . . . 言葉は重い . . .

間。

男 5

男 1

しかし今の日本では勇気さえあれば、どのような発言も、
それができれば誰も下の者に道徳は押し付けません。ネット
で憂さを晴らしません . . . とにかくこの日本の空気を変えね
ばなりません . . . 皇室の解体 . . . それが、ボクが民主主義社
会へ参加できる、そのような人間になれる第一歩なんです。

間。

男 5 . . . そうですね . . . 私も縛られていたわけですね。
男 1 . . . そうですか？

男 5 私は道徳的に親を縛った . . . 体の自由のきかない親を、精神的にも縛った . . . 見えない暴力というやつですかね . . . 私は道徳に甘え、利用した . . . 今、実感を込めて思うのですが . . . あなたが言ったように、我々は道徳というより、陛下の言葉に縛られていたのかもしれないですね。

男 1 ええ。
男 5 お願いすることはできませんかね、天皇陛下に。

男 1 え？

男 5 陛下よ、我々を解放して下さいと。もう耐えがたきを耐えなくともよいと、忍びがたきを忍ばなくともよいと。一言仰ってください、我々を解放すると。

男 1、歓喜に震える。

男 1 そうですね！ そうですねよ！ そうなんです！ . . . 陛下、『もうよい』と仰って下さい . . . 『その荷物は捨ててよい』と . . . 『よくここまで運んできた』と . . . 『汝ら臣民はこれ以上、耐え忍ぶことは必要ない』と仰って下さい . . . 『よく頑張った』と . . . 。

間。

男 1 解放して貰いたいんです . . . 陛下にしかできないのです . . . 。

間。

男 5 しかし、自分で言うっておいて何ですが、天皇陛下が社会を無秩序に導くようなことを言うはずがありません。

男 1 . . . 無秩序、ですか？

男 5 ええ。言葉はいかようにも解釈されますからね。しかし、あなたは今、天皇陛下に先ほどのことを宣言して貰えば、皇室はそのままでもいいと思っっている . . . そうですか？

男 1 そうです。ただ、ボクが昭和天皇の御言葉を捨てる勇気を、その決断を担保してくれる新たな御言葉が欲しいんです。

男 5 それだと結局我々は陛下の御言葉がないと何もできないということに . . . 。

男 1 . . . ボクは . . . 少なくともボクは、自力でその言霊から離れ

男 5
することはできないんです．．．そうです、新しい日本の道徳を醸成する御言葉が、ボクに勇気を与えてくれる御言葉が必要なんです．．．それがどんなものになるか．．．一つ確実なのは、新生日本の道徳の中心には皇室があり、ボクはそれに沿って生きるのみということですよ。
では戦争に負けて皇室が解体されると困りますねえ。私は困りませんが。

間。

男 1
ボクは戻ります。取り敢えず戦争が始まっているのかどうかを確認し．．．とにかく皇室は守らなければなりません．．．畏れながら陛下には、近い将来、『解放宣言』を出して貰いたいからです．．．ボクは、ボクの人生をそこに捧げてみたい。
若者らしくていいですね。
あなたは．．．どうしますか？
．．．私は山を登ります。
登る？
ええ。頂上までまだしばらくありますから。
登ってどうするんですか？
そこで死を待ちます。

間。

男 5
まあ凍死するか、餓死するか、座禅を組んで仏のように死ぬ予定です．．．朝日や月でも眺めながら．．．。
．．．。
私は今の無感覚な状態でこれ以上生きていたくはないのです。じつに無駄です．．．もはや生きる意味がない．．．すべてはとうでもよいのです．．．いずれすればは無になる、それだけです。
．．．死ぬことに意味はあるんですか？
人生は無意味です。私から出ましようか？
あなたが言ったんですよ。陛下よ、我々を解放して下さいと。ボクに答えを与えたんですよ。影響を与えたんですよ。実感を込めてと言ったじゃないですか。つまり．．．何かこう、後悔というか、悔しい思いが心によぎったわけではないでしょう。
ただのお喋りですよ。心が動いたわけではないです。
刑務所に戻って話の続きをしましょう！ まだ聞きたいことが色々あります。

男 5

お断り致します．．．ここに到着する前から、ここでの会話は最後の贅沢だと思っていました。しかも予想以上に豪華な食事で、私はもう満腹です。思い残すことは何もない．．．では私はこれで、ㇿドアに向かう。

男 1

待って下さい！ 待って下さいよ．．．わかりましたよ．．．せめて、雪が止んでから出発して下さい。

男 1、燃える薪を一本、手に持ち、

男 1

お礼を言います。お陰で自分の進むべき道がはっきりしました．．．陛下の御言葉をもてあそび、利用するだけの道具にしたのは誰なんでしょうね．．．刑務所で待っています．．．

男 1、上手ドアより、去る。

男 5、一人佇み、物思いに沈む。

間。

外でするどい銃声、四、五発。

男 5、少し反応する。

間。

男 5、何事もなかったかのように、寒そうに体をさすり、窓板を閉め、

男 5

随分冷えるな．．．

と、暖炉に薪や新聞紙を入れたりする。

飛行機の轟音。

狼の遠吠え。

ヘリコプターの音。

すべての音が交錯し、

幕。

題

雉も鳴かずば

撃たれまい